ついじまつ

COMMUNICATION

ついじまつコミュニケーション：築地松情報誌1997．3月　発行―築地松景観保全対策推進協議会

第3号

築地松物語

やさしく、懐かしい、日本のふるさとがここにあるから。

forever

歴史遺産としての築地松

美しい築地松の散居村は、いつごろ生まれたのだろうか。想像をまじえて考えてみよう。

斐伊川の沖積作用によって出来上がった出雲平野は、島根県の代表的な穀倉地帯。だが、古代から広大な平野だったのではない。『出雲国風土記』の語る奈良時代には、宍道湖の汀線は県道十六島直江停車場線あたりだったらしい。しかも、その中央部はもっと西の方へ湾入していた。斐伊川は武志あたりで西に折れ、大社湾に注いでいたから、現在の一畑電鉄大社線の南の方は、東西にわたって沼沢地が広がっていた。風土記の言う、「草木叢り生ひたり」といった状態だった。近世になると、斐伊川は東に流れて宍道湖に注ぐ。すると、松江藩は幾度かの川違えによって、下流にどんどん沖積地を造成していったのである。やがて南北の山裾に住んでいた農民たちは、沖（中央部）に広がる荒蕪地・沼沢地に開墾の鍬を入れるようになる。その時期は、西部では中世、東部では近世になってからだ。開墾がすすむと、彼らは自然堤防などの微高地に住居を構えるようになった。だが、ちょっとした大雨でも、すぐに水が押し寄せる。そこで住居の周囲に築地（土手）を造り、それを固めるために高木低木の樹木を植えた。樹木が成長すると、この地方独特の激しい北西の季節風を防ぐことにも役立った。近世になって斐伊川の堤防工事がすすむと、防水機能としての築地の必要性はうすれ、防風機能が重視されるようになった。かくして南と東側の築地や樹木はなくなり、西と北側だけとなった。松は初めは地主層の屋敷だけだったらしい。しかし、黒松が屏風のように整然と植えられている姿は、一種の風格と威厳をもっており、一般農民にとって憧れであった。その松がほとんどの農家に植えられるのは明治維新前後。マツクイムシで枯れた松の年齢から、そのような推定が成り立つのである。美しく刈り込んだ築地松風景は、百五十年の歴史をもっているのだ。まさに大切な歴史遺産なのである。

「斐伊川 河口の夜明け」古川　誠

TOWN INFORMATION［タウンインフォメーション］

第2回
出雲市
Izumo

出雲市まちづくり景観条例

竿井手川沿いの築地松と生け垣

快適で出雲らしいまちづくりを目的として、平成元年に「出雲市まちづくり景観条例」を制定し、築地松景観を主たる景観要素の一つと位置づけた景観整備基本計画を策定しました。景観形成地域として、馬木北町・看護短大周辺・リバーサイドタウン川西の３地区を指定し、大規模行為届出制度により、大規模な建物等について景観上の協議を年間約100件行なっています。出雲市まちづくり景観賞として、景観づくりに貢献された民間の建物などを、毎年３点表彰しており、平成４年度には「高岡町竿井手川沿いの築地松」が受賞しています。生け垣設置奨励金制度により、個人住宅の生け垣設置を推進するための助成を行なっており、年間約40件の利用があります。景観を害している看板や空き地等について、市がパトロールを行ない改善要請する景環パトロールを、平成５年度から毎月実施しており、約350件の事例を処理しています。このように出雲市においては積極的な景観整備に取り組んでいます。

出雲市指定文化財築地松

出雲平野特有の文化財である築地松を維持保存するため、特に素晴らしい築地松４か所を文化財に指定し、維持保全に補助を行なっています。

樹医制度

出雲市では、全国に先駆けて樹木の医者（樹医）の認定制度を創設し、現在、７名の樹医により、樹木の病害虫の予防、診断、緑化推進等を行なっています。築地松の松くい虫の防除等についても、指導や助言を行なっています。

築地松のある公共施設

- **■出雲文化伝承館**　豪農の住居を移築すると共に新しく西側に築地松が植えられています。
- **■島根医科大学**　開学当初に、北側(正面)と西側に築地松が植えられ、数年前に剪定が行なわれて、りっぱな築地松になりました。平成６年度には、「しまね景観大賞」を受賞しています。
- **■出雲ドーム**　北側と西側に新しく築地松が植えられています。

びゅーぽいんと

～ここがおすすめ！～

出雲平野に拡がる築地松の散居は、とても美しい景観をつくっていますが、視点をかえて高い場所からの遠景は一味も二味も違って雄大な景観に変わります。休日に家族で気軽にハイキングがてら楽しめる、絶好の「びゅーぽいんと」を紹介しましょう。

VOL.1

旅伏山（たぶしさん）
ハイキングコース

シリーズ第１回は、平田市の「旅伏山ハイキングコース」を紹介します。

旅伏山は、標高456メートルと平田市では一番高い山で、その昔、国引き八束水臣津野命が韓国から旅をして来られ、この山で休息されたという伝説があります。

平田市内から車で10分程度で登口のある駐車場に到着します。ここには水洗トイレも整備されていて安心です。

ハイキングコースは中国自然遊歩道として整備されていて頂上まで片道約2.4キロメートルのコースの途中には3カ所の休憩用のベンチが備えられ、また急傾斜の部分は丸木の階段や手すりが作られていて、安全に登れるようになっています。途中の杉木立の中を、おいしい空気を吸いながらゆっくり登って1時間あまりで頂上に到着します。

頂上は芝の広場になっていて、南北の素晴らしい眺望が目を楽しませてくれます。

特に南側は、眼下に広がる出雲平野の築地松散居が幾何学模様をつくっていて、まるで箱庭を見ているような眺めです。そして、大きく蛇行して宍道湖へ流れ込む斐伊川がこの地の生い立ちを物語ってくれる気がします。目を北西に向けると、青々した水面を抱いた十六島湾が見え、快晴の日には遠く隠岐島も望めます。

この山頂から、西に下るコースをとれば約3キロメートルで、天台宗の名刹、鰐淵寺の山門近くに出るコースになっています。

これからの好季節、御家族でプランを立てて、ぜひ一度訪ねてみてはいかがでしょう。

『こんにちは、ついじまつレスキュー隊です。第2号から始まった、シリーズ・松くい虫をやっつける方法の2回目です。みんなで築地松の大敵をやっつけましょう。』

松くい虫を防除する(2)

―予防・その1―

1．目的

マツを枯らす病原線虫（マツノザイセンチュウ）を媒介するマツノマダラカミキリ成虫が枯死木から脱出する前に、あらかじめ守ろうとする健全なマツの樹冠部に殺虫剤を散布しておきます。そしてカミキリが細枝の樹皮を食べる（後食）ために飛来したとき、殺虫剤を散布した枝を噛り死んでしまいます。その結果病原の線虫がマツの木の中に侵入することができず、松くい虫からマツを守ることが出来るのです。

2．方法と留意点

地上から動力噴霧器などを用いてつぎの殺虫剤などをマツの樹冠部に散布します。散布時期は成虫が脱出し始める６月上旬に１回、また薬剤の種類によっては、その２週間後の脱出最盛期に１回の計２回散布します。

散布量は樹冠から薬剤がしたたり落ちる程度です。樹高10mのマツで３ℓが標準量です。

散布時にはつぎの点に留意してください。

①散布するときは、ゴム手袋、マスクを着用し、薬剤に直接触れたり吸い込んだりしないように注意します。

②適期に散布します。

③薬剤はマツの樹冠部にむらなく散布します。

④風向風速をみながら散布薬剤が飛散しないように注意します。

⑤周辺にクワ、タバコ畑がある場合は散布をしない。蔬菜畑、井戸、池などはビニールシートで覆って、薬液が落ちたり流入しないようにします。

⑥自動車は薬液がかからない場所に移動しておきます。

有効成分(含存率)	商品名	稀釈倍数	散布回数
MEP(80%)	スミパイン乳剤	150~200	2
NAC(50%)	デナポン水和剤	25~ 50	1
MPP(50%)	T-7.5パイセフト乳剤50	100~200	1
クロルピリホスメチル(40%)	レルダン乳剤40	50~100	1
プロチオホス(50%)	グリーンT-7.5乳剤	50~100	1
プロチオホス(35%)・ピリダフェンチオン(15%)	ゾビーT-7.5乳剤	100~150	1

♪築地松伝言板♪

◎マスコットキャラクターネーミング
募集!!

◎築地松の昔の写真をお貸し下さい!!

◎好評につき築地松サイクリングを今年も実施予定!!

このCOMMUNICATION誌をご覧になったご意見・ご感想をお寄せ下さい。粗品を進呈します。
協議会各窓口またはインターネットホームページで受け付けています。

新しく築地松のホームページを開設しました!!

アドレス
http://www.pref.shimane.jp/section/keikan/

築地松景観保全対策推進協議会とは、

出雲平野の「築地松散居景観」を保全するため、平成６年５月に島根県、出雲市、平田市、斐川町、大社町及び住民代表を構成員として発足させました。
協議会では広報誌、イベントなどを通して普及啓発を図ると共に、一定の区域を設定した、全員参加による築地松景観保全住民協定を設け、築地松の維持管理費の助成などの保全対策事業を展開しています。

■築地松住民協定締結団体分布図

●……協定締結団体
※平成9年3月末現在63団体

■築地松景観保全住民協定の認定（平成9年3月末現在）

合計　協定数63／構成人数1,137人／所有者899人／1048.1ha

出雲市

19協定 構成人数 205人
（うち所有者）205人

面積184ha

平田市

17協定 構成人数 476人
（うち所有者）303人

面積390.2ha

斐川町

16協定 構成人数 332人
（うち所有者）267人

面積395.8ha

大社町

11協定 構成人数 124人
（うち所有者）124人

面積78.1ha

■築地松助成金の交付（平成7年度）

合計　助成人数73／助成金支出額2,399,784円

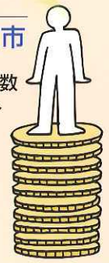
出雲市

助成人数13人

助成金支出額
366,768円

平田市

助成人数
31人



助成金支出額
1,088,420円

斐川町

助成人数17人

助成金支出額
416,416円

大社町

助成人数12人

助成金支出額
528,180円

「築地松風景」　（第２回日展出品）島根県出雲総務事務所所蔵
矢田清四郎　洋画家
日展会友。上社会会員。光風会会員。帝展に初入選。その後日（帝、文）展に数多くの作品を出品。出雲美術協会を創立、子弟の育成と地方文化発展に努める。四季折々の築地松を主題としたシリーズを得意とした。（昭和52年没）

ついじまつCOMMUNICATION

風のたよりに

ー感動的な築地松ー

Uターンして斐川町へ帰ってきた直後の秋の夕方、自宅の近くで築地松を撮影していた時の事だった。辺りはすっかり陽も落ちて闇が漂いはじめていた。そして、地平線近くはオレンジ色の残光が築地松をシルエットのように浮かび上がらせ、そのなかで納屋のはだか電球がポツリと灯っていた。それがひどく感動的で、胸が締めつけられる思いがしたのを今でも覚えている。それ以来、築地松と人々とのくらしをテーマに記録し続けている。春にチューリップ、夏には雲、黄金色の秋、そして白い季節と、さまざまな演出をしてくれる斐川平野が好きだ。

古川　誠（ふるかわまこと）
昭和27年生まれ。日本写真家協会会員。郷土の四季折々の自然を題材にして活動を展開。築地松のある風景を題材にした作品も多い。「愛詩愛景」「ふるさと斐川探訪シリーズ」「潮風に吹かれて」他の出版がある。

築地松景観保全対策推進協議会

島根県環境生活部景観自然課	〒690	松江市殿町1番地	電話0852-22-6143
島根県出雲総務事務所	〒693	出雲市大津町1139	電話0853-23-1515
出雲市建設部建築課	〒693	出雲市今市町109-1	電話0853-21-2211
平田市建設経済部農山漁村課	〒691	平田市平田町951-1	電話0853-63-3111
斐川町企画財政課	〒699-05	斐川町大字荘原町2172	電話0853-73-9211
大社町企画課	〒699-07	大社町大字杵築南1395	電話0853-53-3112

表紙写真撮影「刈込後の田植え」森山國子（斐川町）